

編集委員

大野 裕	今井 淳司	北西 憲二	北村 婦美	齊藤 万比古
下山 晴彦	藤澤 大介	中尾 智博	中村 伸一	西村 馨
林 直樹	平島 奈津子	福山 和女	妙木 浩之	山中 康裕

編集同人

青木 省三	飯森 眞喜雄	伊藤 良子	植木 啓文	大森 健一	加藤 敏
亀口 憲治	北山 修	衣笠 隆幸	久保 千春	久保木 富房	小谷 英文
小林 和	坂口 信貴	坂野 雄二	鈴木 純一	高橋 徹	高江洲 義英
滝川 一廣	瀧口 俊子	田畑 治	中村 敬	植林 理一郎	西村 良二
原田 誠一	平木 典子	弘中 正美	広瀬 徹也	前田 ケイ	松浪 克文
村山 正治	山内 俊雄	山上 敏子	渡辺 久子		(五十音順)

編集室から

4年前の今頃、大学の保健管理センターの退任をひかえて、事例のサマリーを毎日のように書いていた。それなりにまとまった記述にはなるのだが、書き上げるごとに、「違ふよなあ」と嘆息することの繰り返しであった。もともとカルテを書くのも苦手である。要領よく書かれた他人のカルテをみると、羨ましく思う。

診療というプロセスのさなかで繰り返しられることと、いったんそこから外に出て書くことの違いに生ずる落差は、決して埋め合わせることはできない。同じ構造は、事例検討にもあてはまる。なにゆえスーパーバイザーなる者は、自分が診てもない事例について、偉そうに高説をたれ、指導ができるのだろうか。もっとも、少数ではあるが、積極的に陪席させてもらった精神療法家もいる。そういう人たちにかかると、何かふと、セッションのプロセスの中に引き込まれた気持ちにさ

せられるのである。しかし、たいていの場合は、言行不一致が見え隠れしている。自分自身は構造を守れないのに、やたらと構造論を振りかざす人もいれば、人の気持ちに鈍感な者が、いったん転移という現象に気づくや、さも大発見をしたかのように転移論者になったりすることがあってもおかしくはない。

システム論の要諦は、その内在性にある。人は決してシステムの外には立てない。事象に巻き込まれずに記述するというのは、どこかに真理の場を捏造した幻想である。他方、完全にシステムの内側にいれば、もはや記述は不可能になる。精神療法を語るには、こうした困難に自覚的でなければならぬ。今回、原田誠一先生にお誘いいただき、柄にもなく精神療法のフィールドにお邪魔したのだが、先生の狙いはおそらくこのあたりにあったのではないだろうか。(T.U.)

精神療法 第52巻第2号 (年6回発行)

2026年4月5日発行 (通巻273号)

定価2,420円(10%税込) 年間購読料17,820円(10%税込/増刊含/送料不要)

購読ご希望の方は電話・葉書にてお申し込み下さい。

全国の書店からも注文できます。

発行所 株式会社 金剛出版

発行人 中村 奈々

〒112-0005 東京都文京区水道1-5-16 升本ビル

Tel. 03-3815-6661 Fax. 03-3818-6848

振替口座 00120-6-34848

e-mail eigyo@kongoshuppan.co.jp

URL <https://www.kongoshuppan.co.jp/>

表紙レイアウト 白井新太郎装釘室/印刷・製本 太平印刷社

【JCOPY】〈出版者著作権管理機構 委託出版物〉 本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。